

優秀作品紹介

(受賞者名敬称略)

個人部門

● 冲永荘一博士記念大賞（最優秀賞）

学校法人鎮西敬愛学園

敬愛高等学校 2年

赤尾 日菜子

認知症を患う祖母との二人暮らしの中で

● 優秀賞

福岡県立修猷館高等学校 3年

宇野 裕美香

心をつなぐ医療 ～幸せのために～

● 審査委員特別賞

福岡県

学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダム

明治学園高等学校 1年

佐久間 陽奈

悲劇は繰り返されるべからず

グループ部門

● 最優秀賞

大分県立鶴崎工業高等学校 2年

中村 彩乃 竹宮 果穂

岡部 奈七 今村 美仁

鷺尾 果音 岡 葵

大分県をデザインする

● 優秀賞

福岡県立久留米高等学校 3年

近藤 美沙季 鶴田 真由

田中 李歩 伊原 優香

坂本 奈那恵 三木 志織

なぜ私たちは食品添加物を食べるのか

～食品添加物の役割と必要性について～

以上

個人部門

冲永荘一博士記念大賞（最優秀賞）

学校法人鎮西敬愛学園

敬愛高等学校 2年



赤尾 日菜子

認知症を患う祖母との二人暮らしの中で

日本ではいま、少子高齢化が急速に進んでいる。また、2007年に65歳以上の総人口に占める割合が21%を超え、日本は超高齢社会に差し掛かっている。その上、介護分野では働く人が不足している。介護の現場では、重労働な割に賃金が低いことが原因として考えられている。そのような現状を生きる若者の一人として、私は高齢者を支え介護する若者も、介護される高齢者も、より暮らしやすい環境を作っていきたい。これが私にとっての大志だ。

私がこのような大志を抱いたきっかけは、中学校に入学してから現在に至るまでの祖母との生活であった。祖母は認知症を患っていた。認知症とは、記憶をなくしたり、今いる場所が分からなくなったりする病気である。

祖母と暮らし始めてもう5年が経つ。祖母は、一度も私の名前を呼んだことがない。そして、私が孫であることも理解していない。それでも、私の祖母であることに何の変わりもないと思い、最初の頃は「おばあちゃん」と呼んでいた。しかし、日々祖母の世話を積

み重ねていくうちに徐々に「おばあちゃん」と呼ぶことに嫌悪の気持ちを抱いてしまった。祖母はできないことが増えていった。できないことを補助しようとする。「年寄り扱いするな」と怒りをあらわにする祖母に、私は何も言えなかった。認知症という病が祖母の優しい心を奪ったのだと思ってしまった。しかし、ある出来事を境に、私はその考え方が間違いであることに気がついたのだった。

私は学校に行く際に、家の中から祖母が外に出て徘徊しないように内鍵をかけることにしていたが、ある日、鍵を忘れちゃった。その日、学校から帰ると祖母は家にはいなかった。用意していた昼御飯にも手をつけた跡がなかった。玄関を見ると祖母の靴は無く、私は、外に出て近所の人に話を聞いて回った。だが、なかなか見つからない。一度家に帰ってみようと思い、坂を登ろうとした時だった。鼻を吸る音が聞こえた。後ろを振り返ると、祖母がいた。祖母は、涙と鼻水を垂れ流しながら私に言った。「お嬢ちゃん、ごめんね。外に出たかった。でもな、家の道が分からなくなった」と。私は震える手で、祖母を抱きしめた。そして言った。「おばあちゃん」と。私はそこで、自分の間違いに気づいたのだ。当時、私は病院の定期健診以外で祖母を外に連れ出すことがなくなっていた。それからは、学校から帰ると祖母と散歩するようになった。祖母と私の生活には、今までになかった笑顔が増えた。

私は祖母との生活を通し、介護するにあたって大切なことは、優しさと笑顔を忘れないことだと知った。また、介護する人もされる人もお互いが笑顔でいられるためには、意思の疎通が不可欠だと実感した。その意思の疎通は信頼関係を築くことで生まれるのだ。家族が介護できない場合は、介護分野で働く人が必要となる。にもかかわらず一方では介護

分野で働く人が不足している。この問題を解決に導くには、やはり国の主導で労働条件に見合う賃金を再考し、新たな政策を講じるべきだと考える。そして、高齢者介護に無関心な若者にも、講演などを通して私の経験や現在の介護問題を伝えたい。その中で「日本の創造にこれまで貢献してきた高齢者に感謝と敬意を払おう、今度は私たちがその方々を支えて、日本を創造していくのだ」と訴えた。

私がこの輪を広げて日本中に伝えていくことにより、高齢者も介護する若者もより暮らしやすい環境を作っていくのだ。これが私の抱く大志である。

(全文)

個人部門  
優 秀 賞

福岡県立修猷館高等学校 3年



宇野 裕美香

### 心をつなぐ医療 ～幸せのために～

近年、コンピュータの発達がめざましい。2013年に英オックスフォード大学から「雇用の未来」という論文が発表された。ロボット化により10年後に奪われる職業を予測したものだ。果たして、人間の仕事はロボットにとって代わられるのだろうか。

ロボットが当たり前のように傍らにいて、我々の日常に欠かせない存在になる日は必ず訪れる。AIといわれる人工知能は学習能力を備え、いずれ感情さえも獲得するという研究者もいる。そうなったとき、それはもう人間との境がなくなっていくことを意味するのかもしれない。見た目や体温はもろろん、その感情さえもだ。そのとき我々人間は、そもそも「人間」とは何か、という哲学的な問いに向き合うことになる。

現在、わが国が抱える待ったなしの課題である少子高齢化は、様々な問題を露呈してきた。医療費の増大に備えるための増税、社会保障の切り詰め。その結果生まれた格差社会、出現した多くの貧困層。働きづめでも楽にならない生活。親の収入格差はそのまま子の教育格差につながり、やがて世代間で貧困は連鎖すると危惧されている。いったい何のため

に人は生まれ生きていくのか。そんな問いさえ湧き上がってくる。そこには、ロボットにはできない人と人との「つながり」を紡いでいくことからしか見出せない、静かな解が潜んでいるような気がしてならない。

私の夢は、命をつなぐだけではなく、心をつなぐ医者になることだ。きっかけは家族だった。7歳差の妹と9歳差の弟が、幼い頃アレルギー性紫斑病や小児喘息で入院した。無垢で小さなその手の甲に、太い縫い針のような点滴をつなぎ、絶食で空腹に耐えながら次第に痩せ細っていくその姿を、そばで見つめることしかできない自分が情けなかった。

また、この夢を育んだ別の経験もあった。中一で始めた「[菜の花元氣プロジェクト](#)」は今も続いている。九州大学のキャンパスの移転後、寂れたようになってしまった地元を、菜の花で彩ろうとボランティアで汗を流した。街中に少しだけ笑顔がよみがえり、行き交う人の心をつなげた気がした。そして活動2年目の3月、震災が起こった。被災された東北の方々の心を少しでも明るくしたいと願い、福岡の有志が菜の花を咲かせ、収穫した種に思いを込めて、被災地に贈った。一度も会ったことのない人とも思いはつながるのだという感動を体験した。

家族のために医者を目指したことと菜の花元氣プロジェクトから学んだことは、一見つながりがないように見える。しかしそこには、「心をつなぐ」というキーワードがあった。

ところで医者という職業は、ロボットにとって代わられることなく、少なくとも私の寿命までは存続しているのだろうか。現在でさえ米国では、何千人もの患者の症例のビッグデータを用いて、治療法の選択や病状の変化の予測などが行われている。そう遠くない将来、ロボットの正確性とデータの解析能力を駆使して、患者の症状や持病、年齢などを入

力するだけで、膨大な“エビデンス”に裏打ちされた最適な薬、最もリスクの少ない治療法が瞬時に示されるようになるだろう。ミスのない正確な手術も約束されるだろう。しかし、ロボットには患者にとってそれが本当に幸せな生き方なのかということまでは追求できない。ロボットがベストだと導き出した治療法が、もし、薬漬けにされ、病院のベッドでたくさん管につながれ続けるというものであつたならば、患者がそれを望み、そのように生きることが幸せなのかは定かではない。患者に寄り添い、どのように生きることが本人にとって幸せな生き方なのかを一緒に考えることができる「人生のコンサルタント」という意味での医者は、患者と同じく命に限りある、共感しあえる血の通つた生身の人間にしかできないのではないだろうか。

家族を助けたいという思いが志の起点だった。願わくば、本来人間が持つ神秘的な治療力をその母たる大自然とつないでいけるような、心をつなぐ医者になって、人の幸せに関わる人生を歩みたい。  
(全文)

個人部門

審査委員特別賞

学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダム

明治学園高等学校 1年



佐久間 陽奈

悲劇は繰り返されるべからず

「おにぎりが食べたい」。

そう書き残して北九州市で男性が餓死し、1か月後に発見されたというニュースが流れたのは私が小学生の時だった。

「孤独死」という言葉すら知らなかった当時の私にとって、今の時代に餓死する人がいて、その上1か月も誰にも発見されなかったという衝撃的な事実には、食事が喉を通らなくなったことは今でも忘れられない。これが私と「孤独死」との出会いだった。

家族は、友達や、隣人はいなかったのか、様々な疑問に悶々とし、当時中学生だった姉と、何か自分たちにできることはないのか考えるようになった。そして辿り着いたのが、フランスのパリで始まった「隣人祭り」だった。同じアパートの住人が孤独死していたことに愕然としたアタナーズ・ペリファンという人が、近隣の人の結びつきを強め、悲劇をなくそうと始めた活動だ。気軽に食べ物を持ち寄り、一人でも多く知人を作り孤独死を減らすことを目的に、世界約30カ国、1千万人に広がった活動である。この活動の存在を家族に話すと、「隣人祭り」日本支部に登録し、

隣人祭りを開ける資格を取ってくれた。

祖父が立ち上げたNPO法人が隣人祭りを開くようになり、私もその活動に参加し始めた。北九州市は政令指定都市の中で最も高齢者の割合が高く、孤独死の可能性の高い独居老人も多い。出来るだけ一人暮らしの高齢者に声をかけ隣人祭りに誘い、孤独にさせない、これが私たちに考えた最善の策だった。

隣人祭りを近所の幼稚園の子供たちや色々なサークルの発表の場にしたり、若い人も参加できるようにしたりして、世代を超えた交流の場にもしようとした。ささやかな交流がやがて「縁」に、そして「絆」に育って欲しいというのが願いだだった。

しかしある時、隣人祭りに参加できなかった独り暮らしのお年寄りのお宅に、その時のお弁当を届ける手伝いをした際、孤独死はいつ起こっても不思議ではない現状がまだまだ存在することを痛感した。高齢者の場合、どんなに縁や絆を増やしても、毎日の訪問といった安否を確認できるシステムを構築しなければ、誰にも気づかれずに亡くなってしまふという悲劇は生まれてしまうのだ。とはいえ、ヘルパーなどの訪問をうけなかったり、隣人祭りに参加しなかったりする高齢者の安否確認をどういう方法でとればよいのか、学生の私にはまだ分からなかった。

また、ホームレスの路上死を防ぐために活動しているホームレス支援団体の会員にもなった。炊き出しのボランティアに参加し、自宅だけでなく、戸外でも存在する孤独死の実態も知ることができた。ホームレスの支援には多くの困難と忍耐と善意が必要とされ、複雑な問題も関係してくることも分かった。今の時代は外出しなくても、面識が無くてもSNS等で他人と繋がることは容易だ。これが無縁社会の一因とも言われている。しか

し東日本大震災などで、人と人との絆の大切さを実感した人も多かったはずである。人には血縁、地縁を中心にさまざまな縁がある。かつて当然のように繋がっていた縁や絆が今の社会では途切れてしまっている。その結果としての「孤独死」の問題は、私たち学生が取り組むにはあまりにも重く、困難だ。孤独死の原因と考えられる希薄な人間関係や核家族化などによる社会問題も容易には変えられない。そのような中、更に加速する高齢化と共に、孤独死の悲劇は増加の一途を辿るにちがいない。

私は、初めて孤独死の存在を知った時のあの衝撃を忘れず、効果的な改善策を模索したい。そのためにも、将来は社会保障制度の改革や高齢者福祉に取り組む厚生労働省で働きたい。それこそが、私にできる孤独死を減らすための一番の近道であろう。

悲劇は繰り返されるべきでも、放置されるべきでもない。一人でも多くの方が孤独な死を迎えないこと。私の大志はその実現にある。

(全文)

## グループ部門 最優秀賞

大分県立鶴崎工業高等学校 2年



中村 彩乃  
中村 彩乃  
竹宮 果穂  
岡部 奈七  
今村 美仁  
鷺尾 果音  
岡 葵

## 大分県をデザインする

### 一・大分県は「都道府県別幸福度14位」

私たちは工業高校の産業デザイン科で、いろんなもののデザインについて学んでいる。デザインには、人を楽しませる、人を感動させる、人の役に立つといった、人を笑顔にさせる力がある。私たちは大分県に愛着を感じているが、もつと多くの人々が大分県で笑顔になってほしい。そこで今回は、大分県をデザインしてみようと思う。

では、大分県はどんな特色を持っているのか。インターネットで「教えて！全国ランキング2015」都道府県ランキング 日本統計」というページをのぞいてみた。すると大分県は「都道府県別幸福度14位」という結果が出ていた。全国的に「幸せと感じる」都道府県は、特徴として比較的人口の少ない

県が上位20位までに入っている、というコメントもついていた。では、なぜ人口の少ない方が幸せと感じられるのか。私たちが話し合う中で、三つの意見が出た。一つ目は、自然が豊かで空気もおいしく体によいということ。二つ目は、都会に比べて貧富の差が小さく、県民が不公平感をあまり感じないということ。三つ目は、治安がよいため、地域の人々をお互いに信用できるということである。

### 二・大分県の魅力と課題

私たちは、インターネットで「都道府県ランキング」を経済面、人口面、高齢者の生活面、若者や子どもの生活面、医療面、事件・事故・災害面、観光面などの観点から見てみた（以下、断り書きのないものはすべて「教えて！全国ランキング2015」都道府県ランキング 日本統計」による）。これらを参考に、大分県の魅力と課題について次のようにまとめてみた。

大分県の魅力は、治安がよく安心して暮らせること（人口千人あたり刑法犯認知件数が全国で八番目に少ない）、賃貸住宅が安いこと（安さは公営で全国18位、民営で3位）、一般病院数（医師または歯科医師が、医業または歯科医業を行う場所で、20人以上患者を入院させるための施設を有するもの、とする）が多く医療が受けやすいこと（人口10万人あたり一般病院数が全国で4番目に多い）高齢者向け福祉施設が充実していること（65歳以上人口10万人あたり老人ホーム数は全国で2番目に多く、介護療養型医療施設数は5番目に多い）、また、自然が豊かでのんびりしており、食べ物もおいしいということだ。

逆に大分県の課題は、最低賃金が全国一安いこと、生活保護を受けている県民の割合が多いこと（全国で23番目に多い。ちなみに大分県の人口総数は全国で33位）、高齢者の交

通事故死亡者率が高いこと（大分県警察本部のホームページによると、平成27年9月17日現在、全国で3番目に多い）、火災出火件数が多いこと（人口10万人あたり31番目に少ない）、交通の便が悪いことだ。

この中で、私たちは福祉介護施設や医療施設が充実していることに注目した。大分県は高齢者が住みやすい条件を持つていることに気づいたので。ただ、大分県は経済的にはまだ豊かとは言えず、高齢者の交通事故死亡者率が高いなど、安全面の課題もある。この点をまず改善していかなくてはいけない。

### 三．2040年には5人に2人が高齢者

2040年高齢者人口ランキングを見ると、65歳以上の人口の割合は36・7%となっている。約5人に2人は高齢者だ。このことが、どんな影響を及ぼすのだろう。

若い世代の割合が少ないということは、労働者が少ないということだ。高齢者が増えれば年金の支給が増加し、高齢者に対する社会保障（福祉・介護・医療など）の費用も増える。こうした費用が増えることで、若い世代が負担する金額が大きくなり、若い世代の貧困が増加することも十分考えられる。また、今でさえ少ない若者がさらに少なくなれば、地域文化の伝承がすたれ、地域の人々同士のつながりがなくなってくる。独居老人が増え、孤独死の問題も深刻化するだろう。

### 四．高齢者が住みやすい都道府県1位を目指せ

しかし、どんなに問題を抱えていても、高齢者は確実に増える。ではいつそのこと、高齢者が住みやすい都道府県1位を目指してみたらどうか。

そこでまず、高齢者がいつまでも働けるまちづくりができないか考えてみた。私たちは

都道府県別ランキングで、大分県の高齢者の生活保護率が高いことを知った（全国で20番目に多い）。その原因として、次の二つが考えられる。一つは、年金額が低すぎる（国民年金しか受給していない人が多い）こと。この点については、自営業や農林水産業に従事していた人が多いからだと思われる。二つ目は、その子どもも金銭的な余裕がないこと。この点については、大分県は都会のように働き口が多くはないということ、また働き口があったとしても賃金が安いいため、暮らしが楽ではない人が多いことが影響していると思われる。

以上の点から、これからの大分県は、高齢者が経済的に自立していくための産業にもっと力を入れるべきだ。例えば高齢者たちを社員にして、農園を経営し作物を販売する、民芸工房を経営し民芸品を販売する等考えられる。また、学校帰りの子どもたちを世話する塾の経営はどうか。自分で働いて生活していけるという自信が持てたら、高齢者も生きがいを持って、同時に健康で長生きも期待できる。

次に、私たちは高齢者の命を守るまちづくりについて考えた。全員で話し合っただけで考えた結果、次の二つの案が出た。

一つ目は、高齢者の交通事故死亡者をなくすことだ。夜、高齢者が歩いていて、車にひかれる事故が後を絶たない。せめて反射材を身につけてもらいたいが、孫の世代から反射材をプレゼントしてもらったら、高齢者の方も喜んで使ってくれると思う。認知症を患う方の家族や車のドライバーだけでなく、地域全体が高齢者を守るまちづくりが必要である。

二つ目は、独居老人をサポートすることだ。独居老人の方は近くに人がいないので、宅配サービスや高齢者と仕事で関わる人たちが



定期的に訪問することで、健康状態を確認・把握できると思う。最近では、高齢者が電気ポットを使用すると、離れて住む子どもへ「電気ポットを今使用しているので元気です」という連絡がいくシステムが開発されているそうだ。高齢者が毎日使用するであろう家電製品（テレビなど）に、もっとこの装置がつけば、孤独死を防ぐことができる。また、高齢者同士の交流する場所や機会を設けることで、互いの様子もわかる上に世間話もでき、高齢者がお互いに助け合うことができる。その際、地域の子どもたちも交流するとさらに楽しい。

高齢化が進むことを悲観するよりも、高齢者がいきいきと生活し、高齢者の方々の力もしっかり借りて、地域全体で支え合っているようなまちづくりを目指していくべきだ。

## 五. 大分県の経済力アップのために

ただ、若い世代が定住すること抜きにして、大分県が高齢者を支えていくことはできない。

そこでまず、徹底して福祉産業に力を注ぎ、若い人たちの職を確保する。より一層、福祉施設や医療、リハビリを充実させるために、また、高齢者がいつまでも働き続けられるように、福祉器具の開発が必要だ。福祉というと、関係する企業が限定されがちだが、一般企業の仕事の中にも福祉サービスを探り入れることで、大分県全体を福祉産業の盛んな県にすることができる。全国の人が「大分県に来れば福祉関係の仕事に就ける」と認めるくらいイメージが浸透すれば、若い人も集まってくるのではないか。また、二世帯住宅にしたら補助金を出すようにすると、若い世代も大分県に定住するかもしれない。

次に、大分県を観光地としてもっとPRし、大分ならではの食と、おもてなしの力を高め

ることで、集客力をアップする。インターネットの「じゃらん宿泊旅行調査 2015」で宿泊旅行に「選んだ理由別 都道府県ランキング」を見てみた。「魅力的な温泉があったから」は大分県が群馬県と並んで1位、「良い宿・ホテルがあったから」は大分県が佐賀県と並んで2位だった。ところが「そこならではの食、特産品に興味があったから」という理由には、10位以内に入っていない。「食べ物がおいしい」のが大分県の魅力の一つだと私たちはとらえているのに、これはおかしい。県外からの旅行者に大分県の「食」をアピールするために、一流シェフを呼んで、地元でとれた旬の食材をおしゃれに料理するなどが必要だと思う。

また、県外からの旅行者に大分県の魅力ポイントが伝わるように、大分県マップに観光名所などの入場割引券をつけ、大分空港、大分駅、大分・別府港などで配布するなどの工夫も必要だろう。

大分県の強みである、福祉と観光に特化して力を入れ、全国に印象づけることで、大分県の経済力をアップさせる。高齢者も全国一住みやすい県、大分。これが、私たちのデザインする大分県だ。(全文)

### 【参考文献】

● 「教えて！全国ランキング2015」都道府県ランキング 日本統計」  
<http://japan-now.com> (2015/9/7 アクセス)

● 大分県警察本部ホームページ「交通死亡事故の特徴」  
<http://www.pref.oita.jp/site/keisatu/hasseiji.html> (2015/9/28 アクセス)

● 「じゃらん宿泊旅行調査 2015」  
[http://jrc.jalan.net/jrc/files/research/galaxy\\_uku\\_20150728.pdf](http://jrc.jalan.net/jrc/files/research/galaxy_uku_20150728.pdf) (2015/9/28 アクセス)

● 「じゃらん宿泊旅行調査 2015」  
[http://jrc.jalan.net/jrc/files/research/galaxy\\_uku\\_20150728.pdf](http://jrc.jalan.net/jrc/files/research/galaxy_uku_20150728.pdf) (2015/9/28 アクセス)



三木 志織  
坂本 奈那恵  
伊原 優香  
田中 李歩  
鶴田 真由  
近藤 美沙季

ロリーという表示を見てB飲料の商品を選んだのではないだろうか。そもそもこのカロリーの違いは何によって生じるのだろうかと思ひ、裏の原材料を見てみるとBの商品には0キロカロリーで砂糖の代わりとなるアスパルテームなどが含まれており、Aの商品よりも多く食品添加物が含まれていた。私たちは、食品添加物に対して「怖い」、「体に悪い」といった良い印象を持っていないにもかかわらず、なぜ食品添加物がこんなにも身近に使用されているのだろうかと思ひ調査を行った。

### 仮説

このように悪い印象を抱いているのは、私たちが偏った見方をしているだけで、本当は食品添加物にはデメリットを上回るメリットがあるのではないかという仮説を立てた。

### 調査内容



そもそも食品添加物とはどのようなものなのか。食品添加物は、食品の製造過程や加工の際に使用される保存料、甘味料、着色料、香料などである。食品添加物には、化学合成品と天然物の2種類がある。前者は、厚生労働大臣が許可したもので、現在420品目ある。後者は、有害でなければ無条件で使用が可能なので、現在1065種類ある。次に、なぜ企業は食品添加物を使用するのかということ調べるためにキューピー鳥栖工場へ実地調査に伺った。私たちはそこで品質を保持するため、地域によって味が異なる商品への信頼が失われないようにするために食品添加物が使用されていることを知った。品質保持以外にも味を均一なものにするために使用しているということに驚かされた。

なぜ私たちは食品添加物を食べるのか  
～食品添加物の役割と必要性について～

### 研究の動機・目的

突然ですが、あなたならのどが渴いたとき、どちらの炭酸飲料を選ぶだろうか。0キロカ

あなたはどちらを選びますか？

商品A 150円  or  商品B 150円

A B

アスパルテーム など

	添加物	冷ふた有	冷ふた無	常ふた有	常ふた無
①	×				
②	×				
③	×				
④	○				
⑤	○				

### 実験

食品添加物の有無が食品の品質にどれくらいの影響を及ぼすかということを調べるために実際に添加物を加えずにマヨネーズを作り、市販のものと比較することにした。マヨネーズは次のように作った。材料は卵黄、お酢、サラダ油、塩である。まず、お酢と卵黄、塩をボウルに入れる。次にサラダ油を少しずつ入れて混ぜ、3種類のマヨネーズを作った。図のように条件を変え、市販のものは添加物が少ないものが多いものの2種類を用意した。空気による酸化の速度と保存温度の違いによる変化を比較するために、冷蔵保存ふた有、ふた無、常温保存ふた有、ふた無の4種類に分け朝、昼、夕に観察した。

### 実験結果

まず、表面の色を観察し、1日目と7日目と比較した。手作りのもの①②③は表面の色が濃くなったが、市販のもの④⑤はあまり変化がみられなかった。冷蔵保存ふた有のものは4つの条件の中で色の変化が小さいこと

から、最も保存に適していることがわかった。さらに、手作りのものは4日目に酢と油が分離し始め、表面にしわができ始めた。また、私たちが作ったものは、市販のものよりも油の味が強いものや酸味の強いものなど、3種類とも味が異なり同じ味を作ることは不可能だった。

この実験の結果から、食品添加物は品質保持、味の均一化という役割をしていることが確認できた。みなさんは、次のような2種類のマヨネーズがあったとしたらどちらを選ぶだろうか。無添加だが2日で変色するマヨネーズと添加物入りで保存に優れているマヨネーズ。マヨネーズは1日で使い切るものではないので、保存性が高い後者を選ぶのではないだろうか。その上、後者のマヨネーズは食品添加物のおかげでどれも同じ味になっている。つまり、食品添加物無しでは消費者の求めるようなマヨネーズは作れないのである。



さらに、インスタントラーメンを例に考えてみる。インスタントラーメンには、安くて美味しいという魅力がある。しかし、この美味しさは食材そのものの美味しさではない。スープには旨味を飛躍的に強くする化学調味料、脂のコクと鶏本来の旨味を付与するチ

キンエキスなどのたんぱく加水分解物、さらに香辛料、さつぱりした後味にする酸味料などが含まれている。要するに、私たちが美味しいと感じているあの味は、主に食品添加物から作られていると言っても過言ではない。仮に、食品添加物に頼らずに一から同じようなラーメンを作るとすると、インスタントラーメンのような低価格で提供することはできない。つまり、企業は低価格で商品を提供するために食品添加物を使用しているのである。

以上のことから、食品添加物の様々なメリットが明らかになったが、その危険性が消えたわけではない。そこで、少しでも食品を安全に食べる為には、工夫して調理することが大切だ。

例えば、カップ麺を食べるときは、はじめにカップに注いだお湯を捨てるのがよい。これにより、貧血の原因となるリン酸塩が乾麺から半減し、安全に食べることができる。



また、ウインナーやソーセージは切れ目を入れて、1分間湯通しして食べるのがよい。これにより、切れ目から湯の中に、発がん性のある保存料や発色剤などの添加物が

溶け出していく。また、モヤシやキャベツなどスーパーで売られている野菜は一度水で洗い流すのがよい。そうすることで、血液の酸素運搬能力を低下させる硝酸塩が減少する。

食パンなどのパンはトーストして食べる

のがよい。すると、熱によって発がん性のある臭素酸カリウムが半減する。食品を安全に食べる際には、茹でること、洗うこと、焼くことを心がけよう。

### まとめ

私たちは、食品添加物にはデメリットを上回るメリットがあるのではないかという仮説を立てた。そして、今回の研究を通して、食品添加物には品質保持のほかに低価格での商品の販売や味の均一化という消費者のニーズに応えるメリットがあることがわかった。よって、私たちが立てた仮説は正しいと言える。また、健康への影響が心配される食品添加物の危険性は調理法を工夫することによって減らすことができることもわかった。これからは偏った見方をせず、これは何のための食品添加物なのか、その役割と必要性を考えてみてほしい。(全文)

### 【参考文献】

『新・食品添加物とつきあう法』  
増尾清 健康双書

『食品の裏側—みんな大好きな食品添加物』  
安部司 東洋経済新報社

【ホームページ】  
厚生労働省 ホームページより  
食品添加物の定義

[http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyakusyoku/anzen/dl/pamph01\\_10.pdf](http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyakusyoku/anzen/dl/pamph01_10.pdf)

消費者庁 ホームページより

食品添加物について

<http://www.caa.go.jp/foods/pdf/syokuhin496.pdf>

少しでも安心して食べるために  
ホーム ページより

<http://annex.fe2web.com/tenkabutu/anshin.html>

【実地調査先】

キューピー株式会社 鳥栖工場

※第17回グループ部門の審査委員特別賞は  
該当なしとなりました。